

## 優秀賞

### 『育みの水』

高岡市立南星中学校 二年 堀川 公靖

僕は、「水について考える」をテーマとして真つ先に河川のライブカメラのことを思い浮かべました。

僕は、インターネットやケーブルTVの河川ライブカメラをよく眺めています。家族からも、なにが面白いのかと聞かれるのですが、自分でもよく分かりません。ただ、僕の住んでいる町には大きな河川がいくつもあり、小さい頃から慣れ親しんでいたのも、河川に興味があるのが一番の大きな理由だと思います。

また、家庭科の授業で、富山県は、災害意識が低いと学びました。それ以降、僕は意識して、河川の水位や速さ、にぎり具合等を注意深く気にかけるようになりました。

僕が生まれ育った富山県は、海と山々に囲まれ自然が豊かです。そして、大きな山からの雪解け水が豊富で、七大河川と言われる大きな河川が大地に潤いをもたらしてくれます。それが、富山県が水の王国といわれる由縁なのではないでしょうか。

僕は小さい頃から、町のイベントの魚のつかみ取り大会や釣りが大好きで、よく家族に連れていってもらいます。なかなか川に入れる機会はないので、僕は思いつ切り、綺麗な水で冷たい感触を味わいながら、魚をつかんだ記憶が、とても大切な思い出です。

僕はそんな水の王国富山で、水の恩恵を十分受けています。僕にとって、水は僕を育んでくれていたので、「育みの水」と言っても過言ではないかもしれません。そのような理由で、僕にとつて、河川は言葉で表すとするのであれば、楽しみ、憧れ、親しみ、安らぎに近い存在で、興味をもったのだと思います。

昨今、ゲリラ豪雨とよばれる集中豪雨によって、洪水などの被害をテレビで見る機会が増えて、災害について以前より考えるようになりました。その中で僕が驚いたのは、平成三十年に広島を中心に起きた

西日本豪雨です。広島県は瀬戸内海に面しているので、比較的降水量の少ない地域だったのにも関わらず、河川の氾らん、土砂くずれなどに見舞われ、大きな被害が起きました。家が押し流される様子に、身近である河川の別の顔を見たようで恐怖を感じました。

富山県は、降水量も多い地域で、いつ災害が起きてもおかしくないのに、僕は平穩に暮らしています。しかし、いつ、どこで、何が起きるか分からないだけで、たまたま自分の住んでいる地域に起きていないのだと思うと、「富山県は、災害意識が低い」ということは、僕は、とても危険だと思いました。

毎年、豪雨によつて洪水等の災害が起きています。たまたま、進路の影響で逃れただけで、富山県も例外ではありません。父から、富山県は昔、土砂崩れによる河川の氾らんが多かったので、砂防、治水工事に今でも力を入れていると聞きました。そのお陰もあつて大きな災害も少なく、僕はあたり前のように安心して暮らせています。しかし、これは、決してあたり前ではないのです。自然相手に、人間が出来ることは限られているけれど、僕は、大好きな河川を通して、ライブカメラの河川の様子や水位を観察し、少しでも水かさが増えていると、家族に知らせ、皆で災害意識を高めています。僕に出来ることは、小さな一歩で、実際に役に立たない事かもしれませんが。しかし、これからは災害意識をもちながら、僕にとつては「育みの水」なので、これからも、河川を通して、水と上手に楽しむ機会を大切にしたいと思います。